

予報期間 8月3日から8月9日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第13号については最新の台風予報を参照。
- 5日から7日にかけて、日本のはるか東の高気圧が北日本付近に張り出す。
- 8日から9日は、日本のはるか東の高気圧の北日本への張り出しが弱まる。

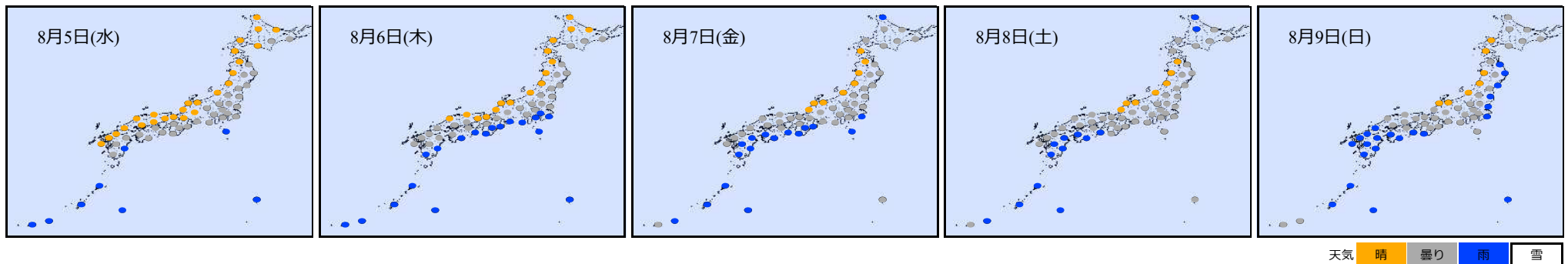
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 7日頃にかけて、小笠原諸島では台風第13号の影響で荒れた天気や大しけとなり、台風の進路等によっては大荒れや警報級の大雨となるおそれがある。
- 5日から7日頃は、西日本太平洋側を中心に台風第13号の影響で波が高くなり、台風の進路等によっては大しけとなるおそれがある。
- 5日から7日頃は、沖縄・奄美では、台風第13号の影響で荒れた天気や大しけとなり、台風の進路等によっては大荒れや警報級の大雨、警報級の高潮となるおそれがある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

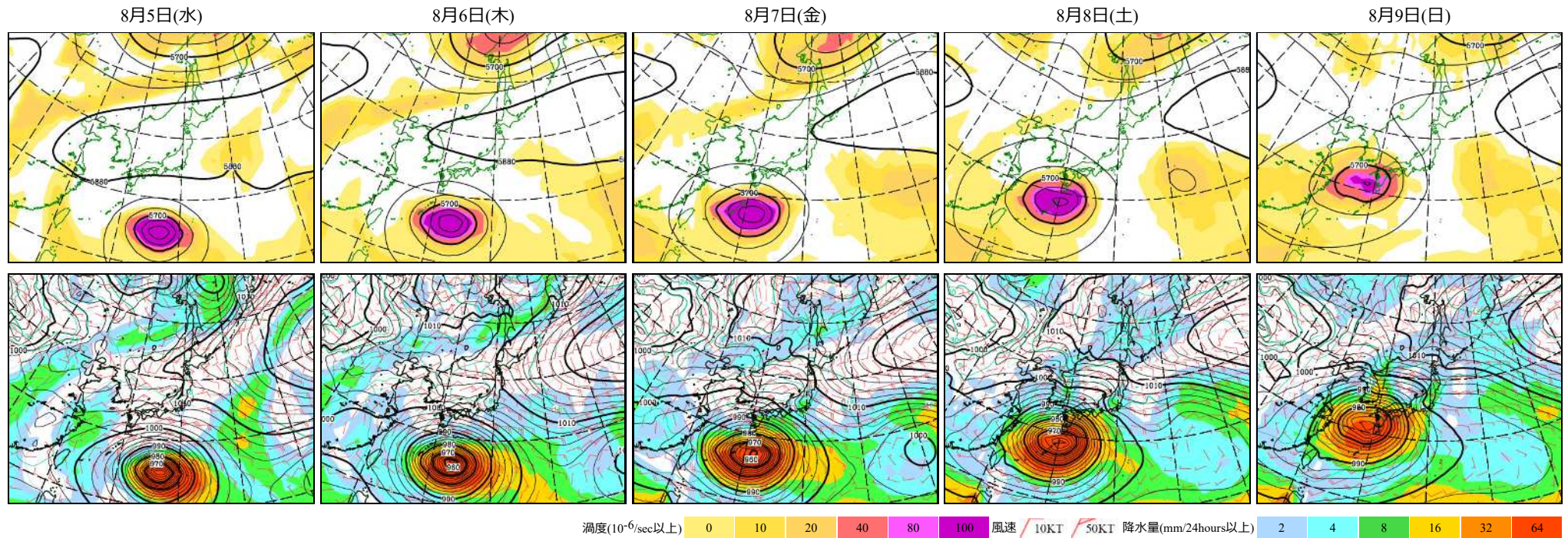
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

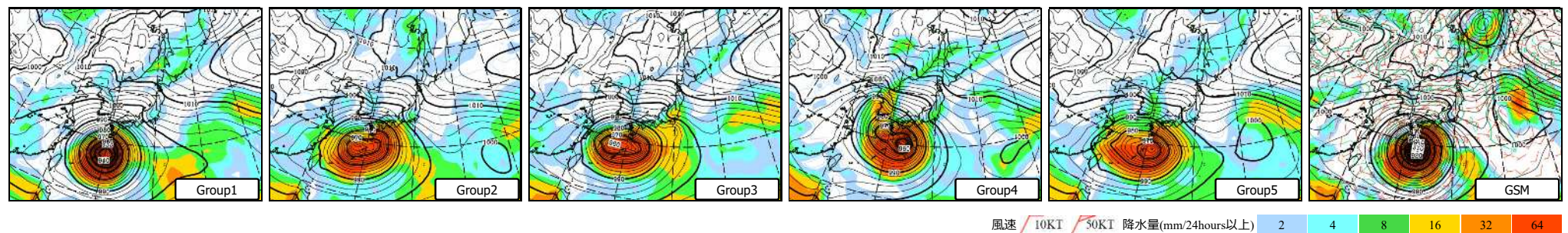


- 北日本と東日本日本海側は、晴れまたは曇りの日が多いが、7日と8日は北海道地方では雨の降る所があり、9日は東北太平洋側では雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月8日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7日以降に北日本の500hPa高度が低くなり、5880mの等高度線が日本の東へ後退する予想に変わった。地上では、6日頃にかけて北日本へ張り出す高気圧が強まったが、その後は高気圧の張り出しが弱まった。
- モデル間の差は6日までは比較的小さい。その後は違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりほど大きく、特定高度線のばらつきも見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。